

第1群（活動報告）

地域包括支援センター「地域ケア会議」
－協働の支援を通して－

○東部保健福祉事務所登米地域事務所(登米保健所) 技術主幹 小川美穂
佐藤純子, 宮城裕美子, 後藤博音

キーワード: 協働・地域づくり・地域包括ケア

I はじめに

地域包括ケアシステムの構築を推進するためには、介護保険サービスのみならず、地域の多様な活動等を有機的に連携・連結させ、包括的・継続的なサービス提供を支える地域包括支援センターのコーディネート機能を充実させていくことが必要となる。そのツールの一つが「地域ケア会議」であり、平成27年度介護保険制度改正において市町村による設置が制度的に位置づけられた。そこで、「地域ケア会議」が、個別課題の解決のみならず地域課題の発見、多職種参加による多角的な視点から効果的に展開できるよう運営を支援したので報告する。

II 方法

登米市は、地域包括支援センター5か所全てを委託している。「地域ケア会議」は、これまでも行われていたが、個別事例の検討が主で、個別支援を通して地域全体の課題等を捉えるような視点での把握や検討はあまり意識して行われていなかった。

平成26、27年度の2か年事務所主催で課題解決支援研修会を地域包括支援センター対象に開催した結果、主体的に取り組もうという気運が高まったものの、具体的にどのように進めていいか迷っている状況であった。

そこで、中田・石越地域包括支援センター1か所をモデルに「地域ケア会議」の充実へ向けて支援を行った。

III 活動内容

(1)地域ケア会議へ向けての支援、(2)地域ケア会議運営への支援、(3)地域ケア会議開催後の振り返りへの支援を行い、社会福祉法人足立区社会福祉協議会足立区基幹型地域包括支援センターの和田忍氏に助言いただいた。

地域ケア会議開催へ向けて、登米市と地域包括支援センターと日々の個別支援や事業を通して感じている地域の課題や地域ケア会議の目的について、話し合うことから始めた。

【第1回地域ケア会議】地区の住民代表を交えて関係者と協働の地域づくりを進めて行くための地域の方の地域への思いを聞く機会を持った。地域は既に住民同士で地域づくりを進めていて、関係者が縦割りに地域に入ることによって地域が混乱していることが分かり、関係者間の横の連携が、不足していることに気づかされた。

【第2回地域ケア会議】関係者（地域包括支援センター、支所、社協）がお互いの事業の紹介や関係者からみる地域の課題について話情報共有することから始めた。

【第3回地域ケア会議】2回目の会議で話題となった課題の介護予防、健康づくり、高齢者見守り等について、関係者が地域に協働ですすめる事項について検討を行った。

住民代表には、会議の開催内容をその都度報告しながら、意見を伺いながら進めて行った。

市と地域包括支援センターと地域に出向き丁寧に話を聞き、検討内容が見える化し、意図的段階的に支援した。

IV 考察

当初は、地域住民との協働を考えていたが、それ以前に関係者間の協働が必要であると気づいた。地域ケア会議を重ねていくうちに、関係者の顔の見える関係ができ、他人事としていた関係者が、「我が事」として参加し、地域に「丸ごと」一体的なサービスを提供できるよう協働で地域づくりをすすめていくチームへと変わってきた。現在は、地区の課題検討から、登米市全体の課題へと市の本庁（健康分野）も含めた検討へと広がりが出ている。今後、地域包括支援センターが定例で関係者と情報共有する会議を開催し、議題に応じて住民へ声かけをする。

V おわりに

地域包括ケアシステムを推進するための手段として、「地域ケア会議」のような話し合う場は大変重要であると考えている。それぞれがバラバラや縦割りですすんで行かず、様々な立場が横断的に協働・連携することで「実感できる成果」に繋がる第1歩に繋がったと感じた。

VI 参考文献

- 1)一般財団法人長寿社会開発センター「地域ケア会議運営マニュアル」(2013)
- 2)一般社団法人長寿社会開発センター「地域包括支援センター運営マニュアル」(2015)
- 3)三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域包括ケアシステムと地域マネジメント」(2016)